様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３３９４１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５４６３３７４

研究課題名（和文）臨床現場の実情に即した臨地実習指導者役割の検討

研究課題名（英文）A study on the role of the clinical Nurse instructor in conformity with the actual situation

研究代表者
山田　聡子（Yamada, Satoko）

日本赤十字豊田看護大学・看護学部・教授

研究者番号：８０２８５２３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、先行研究で明らかにした実習指導者に期待される役割に基づき、実習指導者自身の意向を踏まえた、臨床現場の実情に則した実習指導者の役割を明らかにすることを目的とした。その結果、大多数の実習指導者が期待される役割をすべて果たすべきだが、実際にはほとんどの役割を果たせていないと認識していた。その要因を調査した結果、実習指導者自身の役割認識の曖昧さや、病棟風土や実習指導者サポート、学生指導体制と教員からのアプローチが鍵となり、実習指導者が役割を果たすことにつながることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the role of the clinical nurse instructors according to the situation of the clinical field. As a result, the majority of clinical nurses were aware that everyone should play a role, but they were actually aware that they did not play much role. As a result of examining the factors, the instructor's own role recognition was vague, and the support system of the ward culture and the instructor was key. It is also important for teachers to have an effective approach to instructors.

研究分野：看護学

キーワード：臨地実習　臨地実習指導者　役割　看護学

１．研究開始当初の背景

実習指導者は臨床現場での学生の学びを支援するために欠かせない存在である。しかし、在院日数の短縮化や重症度の高い患者の増加など、実習指導者をとりまく環境が厳しさを増している。

日本における実習指導者に関する研究成果を概観すると、実習指導に対する負担感や困難感に関連する内容（三村ら,2001；細田ら,2004；福井ら,2005）が多く、実習指導者が困難を抱えながら実習指導を行っている現状が報告されている。また、実習指導者の指導行動に関する調査結果（野崎ら,2007）や、国外で開発された実習指導者の行動・態度の効果を測定する尺度を引用した調査結果（中西ら,2002）など、実習指導者の指導行動や役割に関係する調査結果が複数報告されているが、その調査内容は研究者の考えによってそれぞれに設定されており多岐に渡っている。実習指導者に向けた書籍も複数出版されているが、その中で示されている実習指導者の役割は著者らの独自の考えに基づいているため、抽象度やその範囲には大きな幅がある（松木ら,2003；藤岡ら,2004；西元ら,2004)。つまり、わが国においては、コンセンサスの得られた実習指導者の役割は見当たらず、看護基礎教育においてどのような役割が実習指導者に期待されているのかは曖昧である。このような状況の中で実習指導を担い続けることは、実習指導者の負担感や困難感の増強につながり、実習目的の達成を困難にするとともに臨地実習という教育方法そのものの存続を危うくすることも懸念される。臨地実習における教育効果を保証するためには、まず、実習指導者が担うべき役割、つまり役割期待を明らかにすることが急務と考え、我々は平成 21-24 年度科学研究費補助金の交付を受けて研究課題「臨地実習指導者の役割に関する研究（課題番号21592728)」に以下のデザインで取り組んだ。(1)実習指導者役割の項目抽出と検討、(2)臨地実習に関する専門家を対象としたデルファイ法による実習指導者役割の明確化。

研究成果として、臨地実習の目的に到達するために実習指導者に期待される役割として【実習指導の準備】【実習の受け入れ準備】【学生指導】【病棟スタッフとの連携】【教員との連携】の 5 つのカテゴリーから成る 31 項目の役割を明らかにできた（山田・太田,2010；Yamada＆Ota,2012）。ただし、これらは専門家の認識に基づく実習指導者への役割期待であり、学生指導の実務を担っている実習指導者には全てが受け入れられるとは限らないであろう。また、これまで文献等で示されてきた役割に関係する内容と研究成果として明らかになった役割の一部に違いがあったことからも、実習指導者に対する役割期待と実際の実習指導者の認識や行動とのすり合わせを行う必要があると考える。

２．研究の目的

本研究では、先行研究で明らかにした実習指導者に期待される役割に基づき、実習指導者自身の意向を踏まえた、臨床現場の実情に則した実習指導者の役割を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

(1)実習指導者への役割期待と実習指導者自身が認識する役割との違い、およびその役割の実情について

①先行研究で得た調査結果の分析を進め、実習指導者自身が認識している役割と期待

されている役割との相違を確認する。

②同様に、役割をどの程度実施しているのかについても確認する。

(2)役割期待と実習指導者の認識の違いに影響する要因について

上記(1)の分析結果から、認識に違いがあった項目について、実習指導者を対象としたフォーカスグループインタビューを実施し、影響要因と今後に向けた方略を検討する。

４．研究成果

(1)実習指導者への役割期待と実習指導者自身が認識する役割との違い、およびその役割の実情について

先行研究で得た906名(有効回答率79.3%)の調査結果を分析対象とした。

①役割期待と実習指導者の認識との違い

58項目の実習指導者役割のうち、ほぼ6割以上の実習指導者が不可欠であると認識している項目は 56 項目であった。そのうち、「学生受け持ち患者の安全・安楽を確保する」は886名（98.1%）が最も不可欠であると認識している項目であった。一方、「関連文献の活用を促す」は 6 割以下の 487 名（53.9%）が不可欠であると認識し、「予習課題を提示する」412 名（45.6%）は、不可欠であるとの認識が最も低い項目であった。

先行研究に示された看護教育専門家が期待する実習指導者役割に比べて、実習指導者自身が必要不可欠であると認識している役割が多かった。期待以上に数多くの役割を自身の役割と認識していることから、役割への困難や負担の増幅につながると考える。一方、必要不可欠であると認識している実習指導者の割合が低かった項目「関連文献の活用を促す」や「予習課題を提示する」は、既習学習内容と結び付ける必要があるため、教員の役割と考えているのではないかと推察された。

②役割実施の程度

5割以上の回答者が「いつも実践している」と回答した項目は、「患者に実習協力への説明を行い同意を得る/得ておく」791 名（87.3%）、「学生受け持ち患者の安全・安楽を確保する」625 名（69.0%）、「学生の記録場所やカンファレンス場所を確保する」582 名（64.2%）、「学生カンファレンスに参加し助言する」550 名（60.7%）、「実習目的に適した患者を選定する/しておく」522 名（57.6%）、「病棟オリエンテーションを担当する」511 名（56.4%）、「学生が実施したケアの不足を補う」461 名（50.9%）であった。また実習指導者の中核的役割（山田,太田,2013）に含まれる項目の「実習目的・目標や進め方を確認しておく」は 313 名（34.5%）、「実習指導方針について確認する」268 名（29.6%）、「実習における自分と教員の役割について確認・調整する」242 名（26.7%）、「看護師としての役割モデルとなる」174名（19.2%）であった。

実習指導者の5割以上が「いつも実践している」と認識する項目は、山田,太田(2013)が示す実習指導者に期待される役割と合致した。しかし、実習指導者の中核的役割（山田,太田,2013）の一部は実践度が低かった。

(2)役割期待と実習指導者の認識の違いに影響する要因について

先行研究に基づき臨地実習指導者が必要不可欠だが実践できていないと認識している役割 4 項目（1. 実習受け入れ準備として実習目的・目標や進め方を確認しておく、2. 看護師としての役割モデルとなる、3. 教員の実習指導方針を確認する、4.実習における自分と教員の役割を確認・調整する）について、その背景を明らかにすることを目的として、臨地実習指導者を対象とするフォーカス

グループインタビューを計画した。

フォーカスグループインタビュー参加者は、臨地実習指導について一定の教育を受けており、臨地実習指導者の役割について経験に基づく意見をもつ対象者が望ましいことから、「臨地実習指導者養成講習会の受講歴があり、かつ実習指導経験が１回以上ある看護師」とし、6 名の参加者を得た。この参加者は、医療機関等に掲示したポスターでの参加者募集方法をとり、研究参加に対する強制力を排除する方法をとるなど、倫理的な配慮を行った。

フォーカスグループインタビューでは、先行研究にて臨地実習指導者が必要不可欠だが実践できていないと認識している４項目について、現状とその要因は何か、どうしたら実践できるのかについてディスカッションを促した。各グループに１名のモデレーターを配置しグループ討議を進行した。モデレーターは研究責任者および研究分担者が担い、討議内容への意見や意思表示は行わないこととした。分析は、内容を逐語録にし、項目毎に発言の意味内容からコード化し、類似性によってカテゴリー化した。

結果、「実習受け入れ準備として実習目的・目標や進め方を確認しておく」は実習指導者のモチベーションが鍵となり、「看護師としての役割モデルとなる」は病棟の風土が影響しており指導者のみでは困難であること、「教員の実習指導方針を確認する」は教員の指導体制と教員からのアプローチに起因し、「実習における自分と教員の役割を確認・調整する」は専任で指導を担うことの必要性が示唆された。

＜引用文献＞

1. 三村博美、斉藤好子：臨床実習指導者のストレスに関する研究-A病院における指導者の実態調査から-、三重看護学誌、3(2)、59－68、2001.
2. 細田泰子、山口明子：実習指導者の看護学実習における指導上の困難とその関連要因、日本看護研究学会雑誌、27(2)、67-75、2004.
3. 福井美貴、末安民生、野末聖香：精神看護学における臨床実習指導者の抱える困難、日本精神保健看護学会誌、14(1)、88-97、 2005.
4. 野崎真奈美、遠藤英子：基礎看護学実習における教員と臨床指導者の連携のあり方-お互いに期待する役割の分析-、東邦大学看護研究会誌、4、11-20、2007.
5. 中西啓子、影本妙子、林千加子、他：Effective Clinical Teaching Behaviours(ECTB)評価スケールを用いた看護実習指導の分析-第一報-、川崎医療短期大学紀要、22、19－24、2002.
6. 松木光子、宮地緑：看護学臨地実習ハンドブック-基本的考え方とすすめ方-(改訂 3 版）、11-14、金芳堂、2003.
7. 藤岡完治、屋宜譜美子：看護教員と臨地実習指導者（第１版）、95-96、医学書院、2004.
8. 西元勝子、杉野元子：看護臨床指導のダイナミクス（第２版）、pp28-31、医学書院、2003.
9. 山田聡子、太田勝正：看護教員が期待する臨地実習指導者の役割-フォーカスグループインタビューに基づく検討－、日本看護学教育学会誌、20(2)、1-11、2010.
10. Satoko Yamada、Katsumasa Ota: Essential roles of clinical nurse instructors in Japan: A Delphi study. Nursing & Health Sciences、14、229-237、2012.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計３件）

①山田聡子、太田勝正、臨地実習指導者の現状と課題、看護教育、54(7)、2013、600-604.

②山田聡子、太田勝正、看護教育専門家から臨地実習指導者への役割期待-実習受け入れ準備と学生指導における役割、看護教育、

54(8)、2013、756-760
③山田聡子、太田勝正、看護教育専門家から臨地実習指導者への役割期待-病棟スタッフ・看護教員との連携における役割、看護教育、54(9)、2013、854-857

〔学会発表〕（計 2 件）
①加藤広美、山田聡子、服部美穂、太田勝正、臨地実習指導者が認識する「実践している役割」、第 35 回日本看護科学学会学術集会、2015.12.5、広島市
②服部美穂、山田聡子、加藤広美、太田勝正、臨地実習指導者が不可欠であると認識する役割、第 35 回日本看護科学学会学術集会、2015.12.5、広島市

６．研究組織
(1)研究代表者
山田　聡子（YAMADA, SATOKO）
日本赤十字豊田看護大学・看護学部・教授
研究者番号：80285238

(2)研究分担者
太田　勝正（OTA, KATSUMASA）
名古屋大学大学院・医学系研究科・教授
研究者番号：60194156

服部　美穂（HATTORI, MIHO）
人間環境大学・看護学部・講師
研究者番号：90639551

加藤　広美（KATO, HIROMI）
日本赤十字豊田看護大学・看護学部・助教
研究者番号：30744726